

地方分権改革の旗手会議（令和3年度第一回）の概要

【日 時】 令和3年8月25日（金）13:30~14:50
【開催方法】 オンライン開催（Skype、Zoom）
【参加者】 全体講義：43名
グループディスカッション：33名

会議は、全体講義（内閣府からの説明）と交流を目的とした旗手交流会の2部構成。短時間で集中して実施する形としました。

また旗手交流会では、旗手同士及び内閣府職員とで活発な意見交換を行うことができました。

○地方分権改革推進室からの説明

令和3年提案募集の状況や、最近の地方支援の取組みの説明について説明しました。

また、旗手から提供いただいた庁内周知の独自の工夫について紹介をしました。



【挨拶を行う寺崎室長】



【実際の会議の様子】

【参加者の声】

- 他の自治体の分権担当者の顔と名前がわかることは、今後の共同提案など連携に繋がりがやすくなると思う。
- 新任旗手ということもあり、こういう機会の度にこれからの動き方を知り、改めて考えることができるため、非常に有意義であった。
- 提案募集方式が目指す終着点、その後の地方分権改革の方向性をお示しいただきたい。

○旗手交流会（45分間）1グループあたり4~7名で実施。

【導入テーマ】 令和3年提案募集で工夫したこと、取り組んだこと、課題と思ったこと。

主な発言

（提案の集め方、課題など）

- 2月の提案募集開始を待たずに庁内掲示板で周知。提案の働きかけについては、組織より担当者に直接働きかけた方が、提案に繋がりがやすいと感じる。
- 担当課から挙がってきた提案は、根拠となる法令や過去に同様の提案がないか検索してから内閣府に提出している。
- 首長から提案募集を積極的に活用するよう指示があり、首長の関心が高いということで、原則1局1つ提案を出してもらっている。
- 国への要望書などから、分権担当課が提案に繋がりがそうなものを洗いだし、各部局に提案検討を依頼して、提案に繋げている。
- 職員に地域課題を解決したい意識はあっても提案募集制度を知らない。
- 各部署とも課題はいっぱい抱えているが、「どういうものが提案の対象になるのか分からない」という問い合わせが多いので、周知工夫したい。
- オンライン研修のグループワークはどうやっているのか事例などを教えて欲しい。